

8. 預貯金のみ保有層の証券投資に関する意識

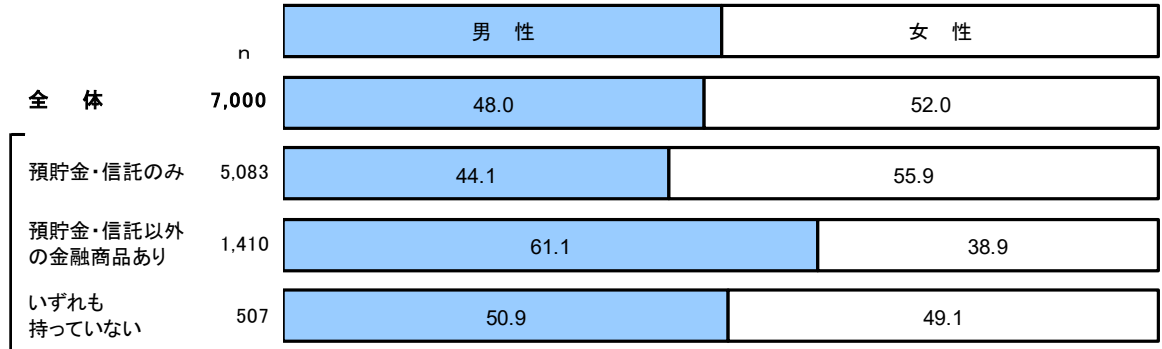
- (1) 性別 (F 1)
- (2) 配偶者の有無 (F 3)
- (3) 職業 (F 4)
- (4) 主な収入源 (F 5)
- (5) 税込み年収 (F 6)
- (6) 購読新聞 (F 7)
- (7) 住居 (F 9)
- (8) 金融商品に対する重視点 (問 6)
- (9) 株式購入理由 (問 40)
- (10) 投資信託購入理由 (問 48)
- (11) 公社債購入理由 (問 54)
- (12) 【株式保有未経験者】株式非購入の理由 (問 43)
- (13) 【投資信託保有未経験者】投資信託非購入の理由 (問 50)
- (14) 【公社債保有未経験者】公社債非購入の理由 (問 56)
- (15) 証券投資知識の習得内容 (問 11)
- (16) 証券投資知識の習得方法 (問 12)
- (17) 証券投資全般のイメージ (問 17)
- (18) 証券会社のイメージ (問 31)
- (19) 「証券取引等監視委員会」の認知度 (問 21-A)
- (20) 「日本投資者保護基金」の認知度 (問 21-B)
- (21) 「日本証券業協会」の認知度 (問 21-C)
- (22) 「東京証券取引所」の認知度 (問 21-D)
- (23) 「証券・金融商品あっせん相談センター (FINMAC)」の認知度 (問 21-E)
- (24) N I S A 認知 (問 23)

注) 前回調査からの継続性を踏まえ、「預貯金のみ保有層」の「預貯金」には「信託」を含みます。

(1) 性別 (F 1)

● 預貯金・信託のみを保有している層（以下、「預貯金のみ層」という。）は、女性が過半数（55.9%）を占め、預貯金・信託以外の金融商品を保有している層（以下、証券保有層という）は、男性が6割強（61.1%）を占める。

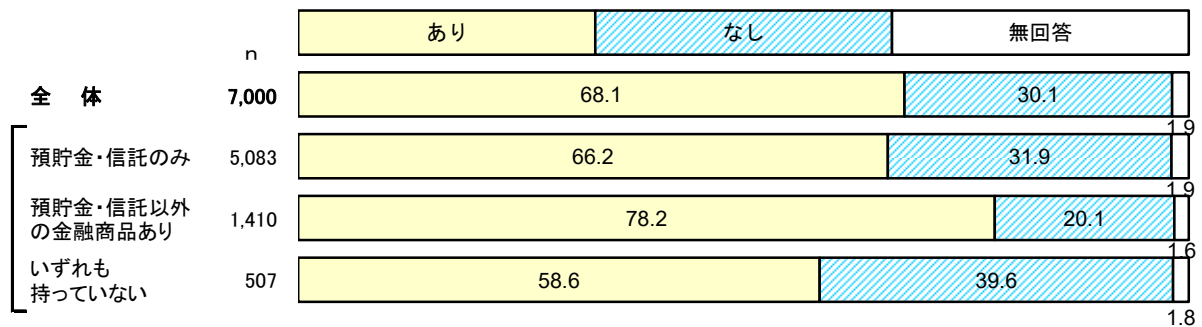
図表 8-1 性別 (F 1)



(2) 配偶者の有無 (F 3)

● 証券保有層は、預貯金のみ層に比べ「配偶者あり」の割合が高い。

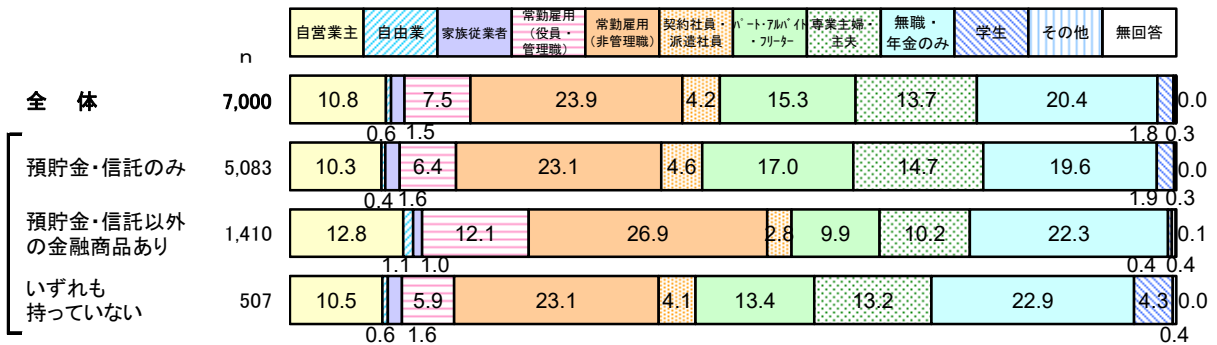
図表 8-2 配偶者の有無 (F 3)



(3) 職業 (F 4)

● 職業は、預貯金のみ層は、証券保有層に比べ「パート・アルバイト・フリーター」「専業主婦・主夫」が高く、「常勤雇用 (役員・管理職)」が低い。

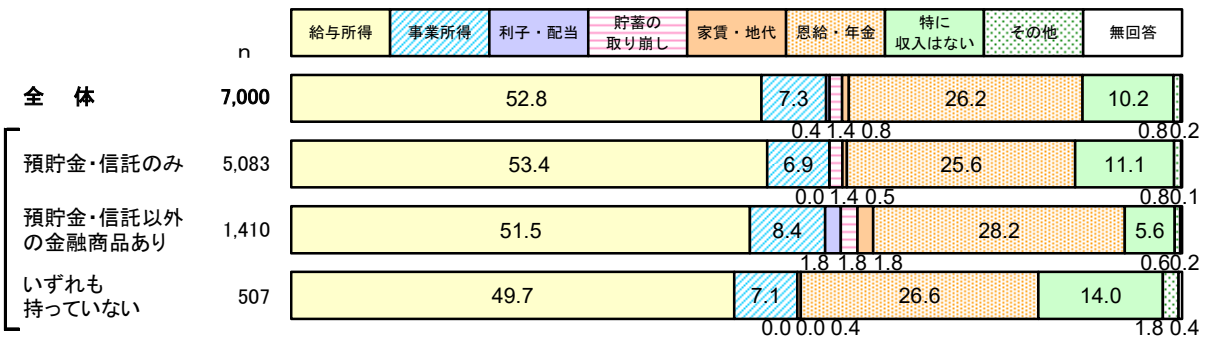
図表 8-3 職業 (F 4)



(4) 主な収入源 (F 5)

● 主な収入源は、預貯金のみ層は、証券保有層に比べ「特に収入はない」が高い。

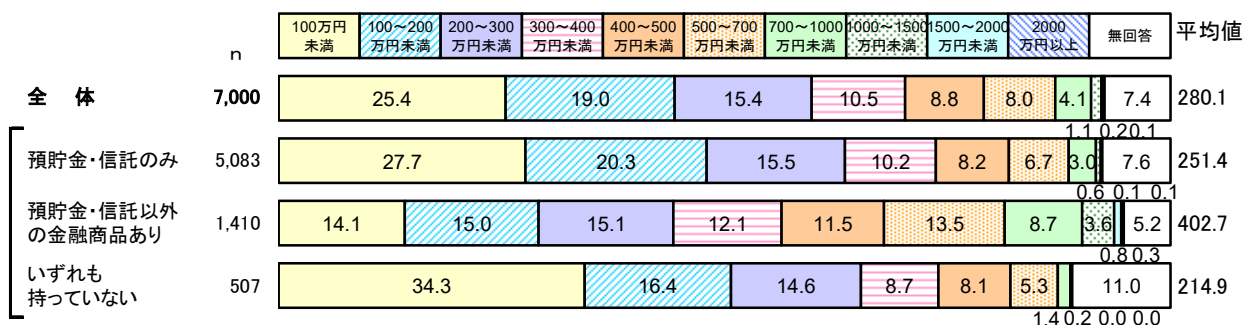
図表 8-4 主な収入源 (F 5)



(5) 税込み年収 (F6)

● 税込み年収は、預貯金のみ層は、証券保有層に比べ「200万円未満」が高い。平均値は、預貯金のみ層の251.4万円に対して、証券保有層は402.7万円である。

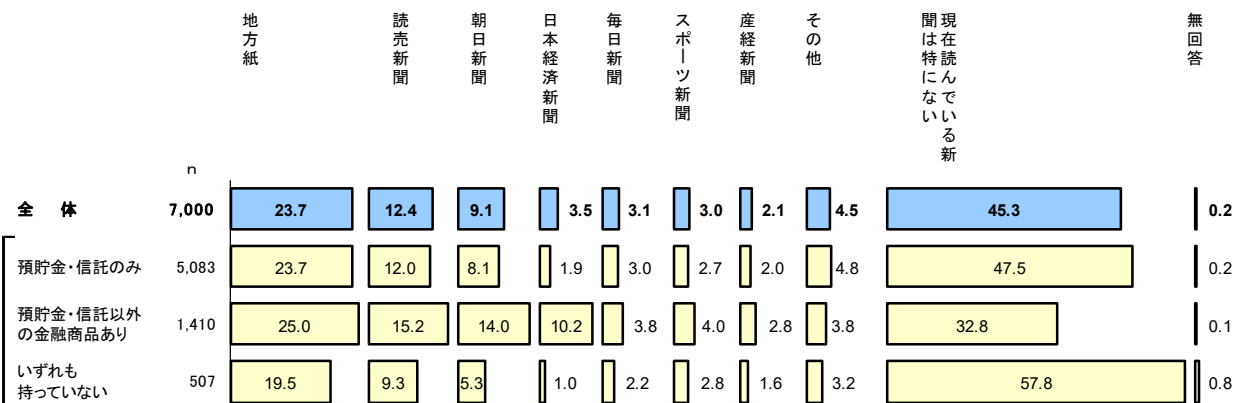
図表 8-5 税込み年収 (F6)



(6) 購読新聞 (F7)

● 購読新聞は、預貯金のみ層は、証券保有層に比べ「現在読んでいない新聞は特になく」が高い。証券保有層は、「朝日新聞」、「日本経済新聞」が高い。

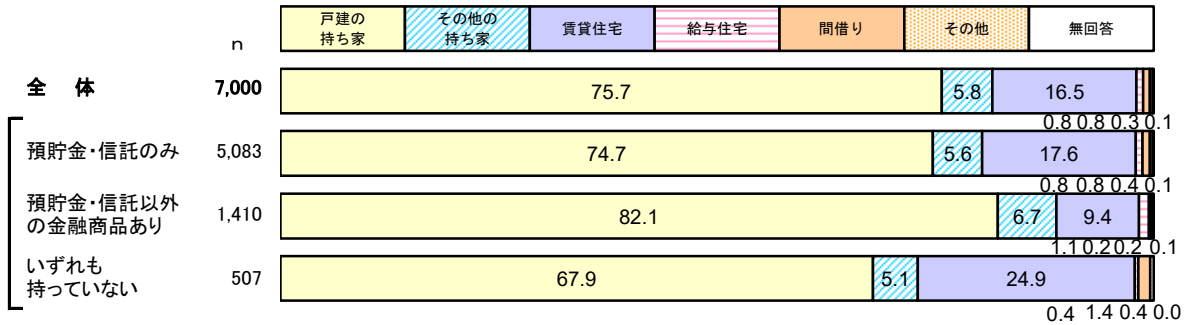
図表 8-6 購読新聞 (複数回答) (F7)



(7) 住居 (F9)

● 住居は、預貯金のみ層は、証券保有層に比べ「戸建の持ち家」比率が低く、「賃貸住宅（公社、民間など）」が高い。

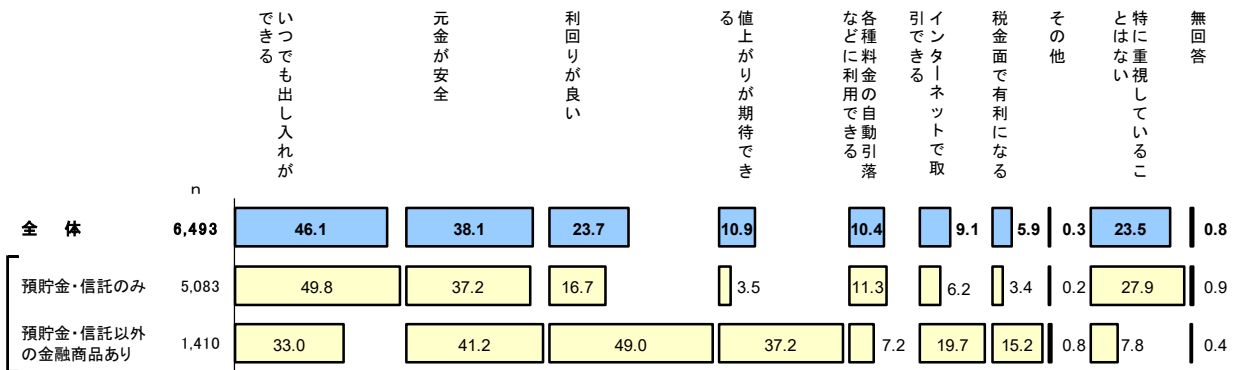
図表 8-7 住居 (F9)



(8) 金融商品に対する重視点 (問6)

● 金融商品に対する重視点については、預貯金のみ層は、証券保有層に比べ「いつでも出し入れができること」、「特に重視していること」の割合が高く、「利回りが良いこと」、「値上がりが期待できること」、「インターネットで取引できること」、「税金面で有利になること」の割合は低い。

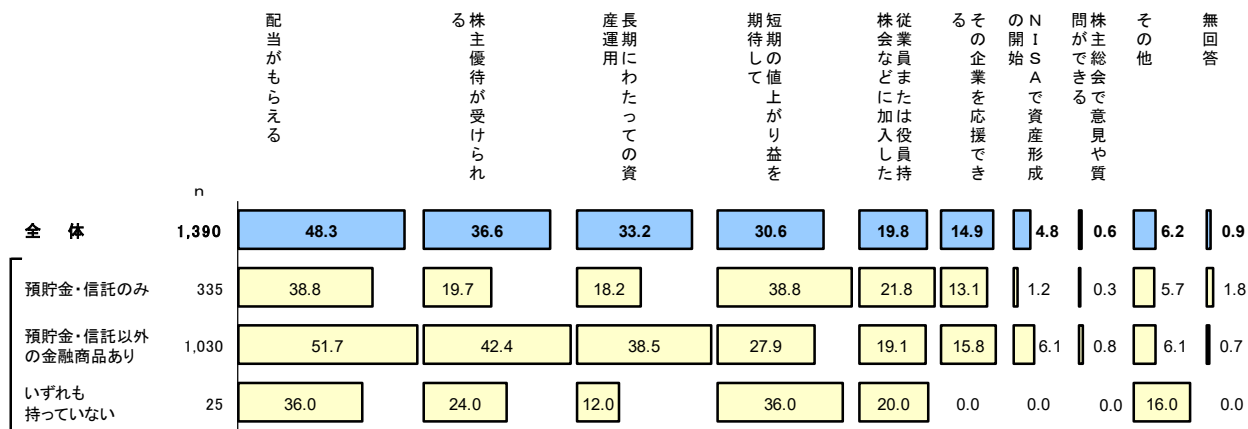
図表 8-8 金融商品に対する重視点 (複数回答) (問6)



(9) 株式購入理由 (問 40)

● 株式の以前保有者の株式購入理由については、証券保有層に比べて、預貯金のみ層では、「短期の値上がり益を期待して」が高い一方で、「配当がもらえるから」、「株主優待が受けられるから」、「長期にわたっての資産運用として」は低い。

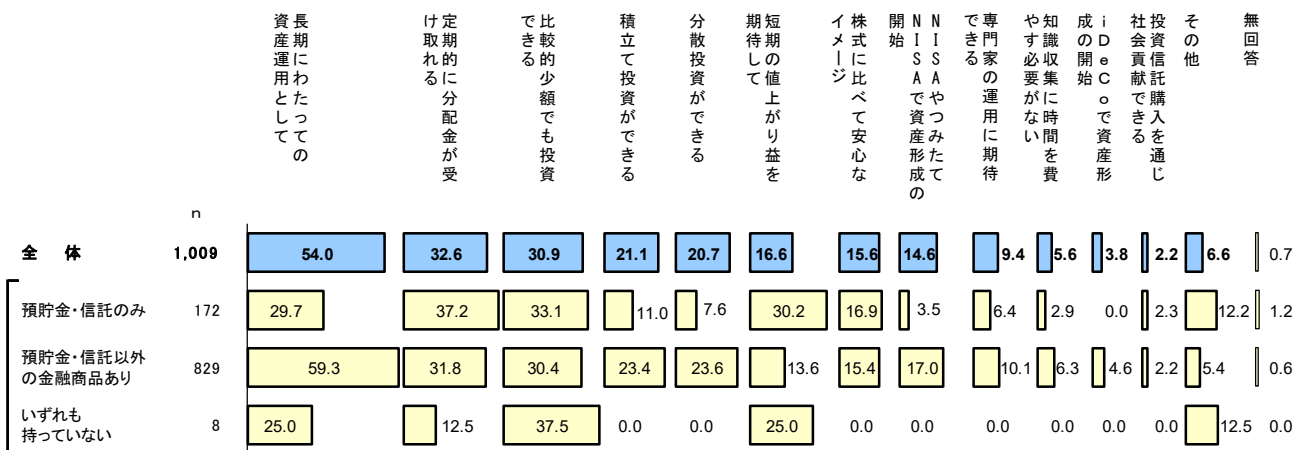
図表 8-9 株式購入理由 (複数回答) (問 40)



(10) 投資信託購入理由 (問 48)

● 投資信託の以前保有者の投資信託購入理由については、証券保有層に比べて、預貯金のみ層では、「短期の値上がり益を期待して」が高い一方で、「長期にわたっての資産運用として」、「積立で投資ができるから」、「分散投資ができるから」、「NISA (少額投資非課税制度) やつみたてNISA で資産形成を始めようと思ったから」は低い。

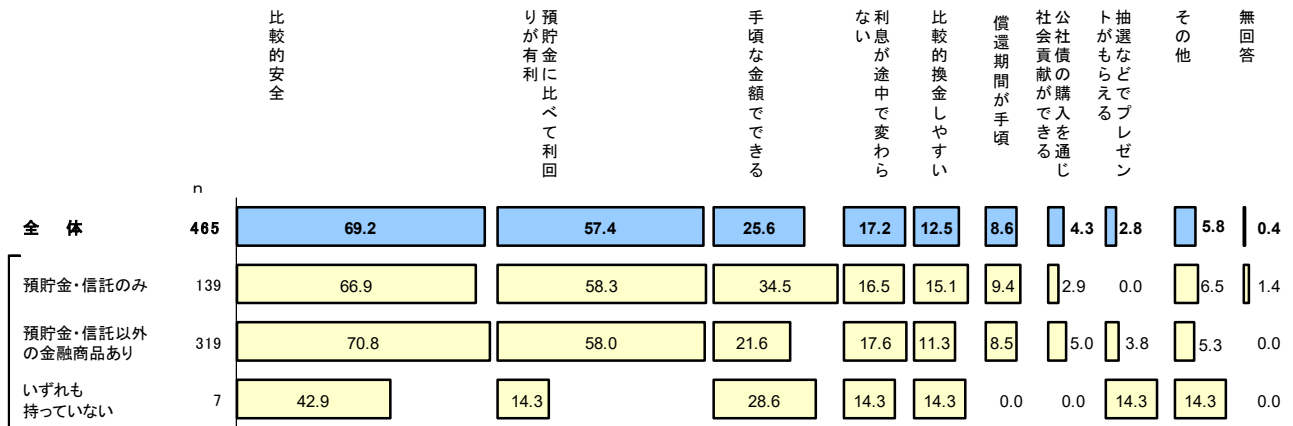
図表 8-10 投資信託購入理由 (複数回答) (問 48)



(11) 公社債購入理由（問 54）

● 公社債の以前所有者の公社債購入理由については、証券保有層に比べて、預貯金のみ層では「手頃な金額でできるから」が高い。

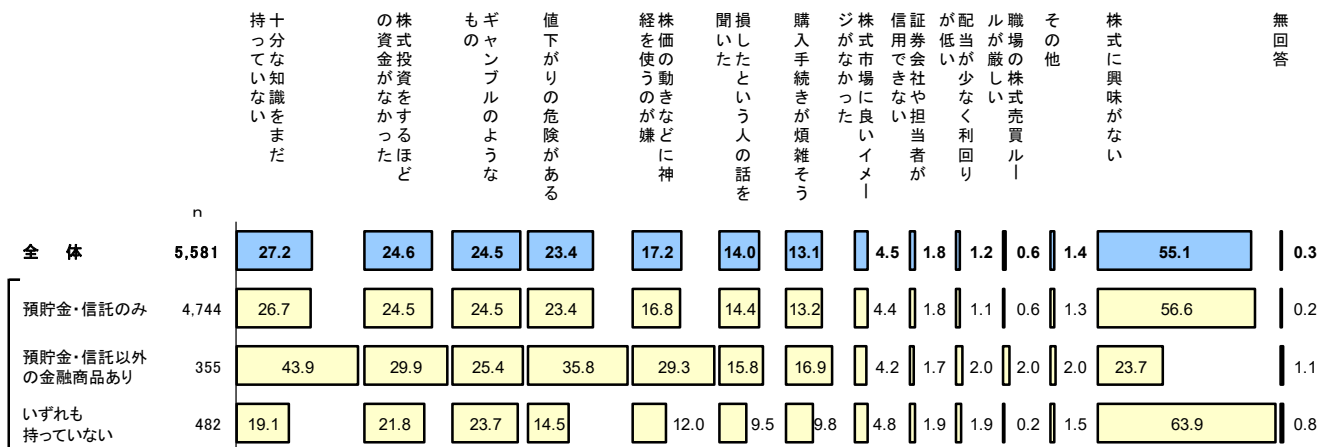
図表 8-11 公社債購入理由（複数回答）（問 54）



(12) 【株式保有未経験者】株式非購入の理由（問 43）

● 株式保有未経験者の株式非購入の理由については、証券保有層に比べて、預貯金のみ層では、「株式に興味がないから」が高く、「十分な知識をまだ持っていないと思った（どの銘柄を買ったらよいかわからなかった）から」、「値下がり危険がある（元本の保証がない）から」、「株価の動きなどに神経を使うのが嫌だったから」は低い。

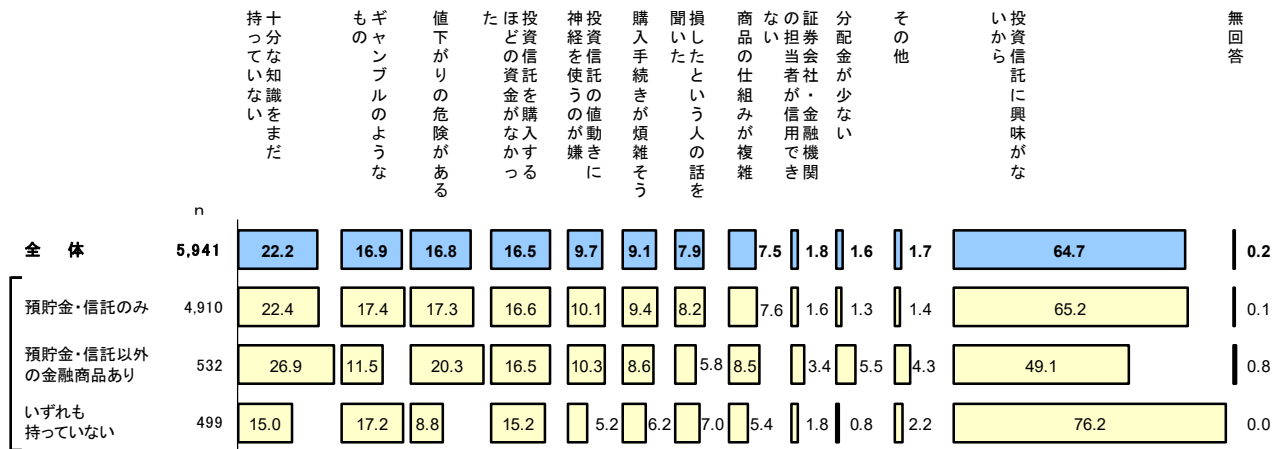
図表 8-12 【株式保有未経験者】株式非購入の理由（複数回答）（問 43）



(13) 【投資信託保有未経験者】投資信託非購入の理由（問 50）

● 投資信託保有未経験者の投資信託非購入の理由については、証券保有層に比べて、預貯金のみ層で「ギャンブルのようなものだったから」、「投資信託に興味がないから」が高い。

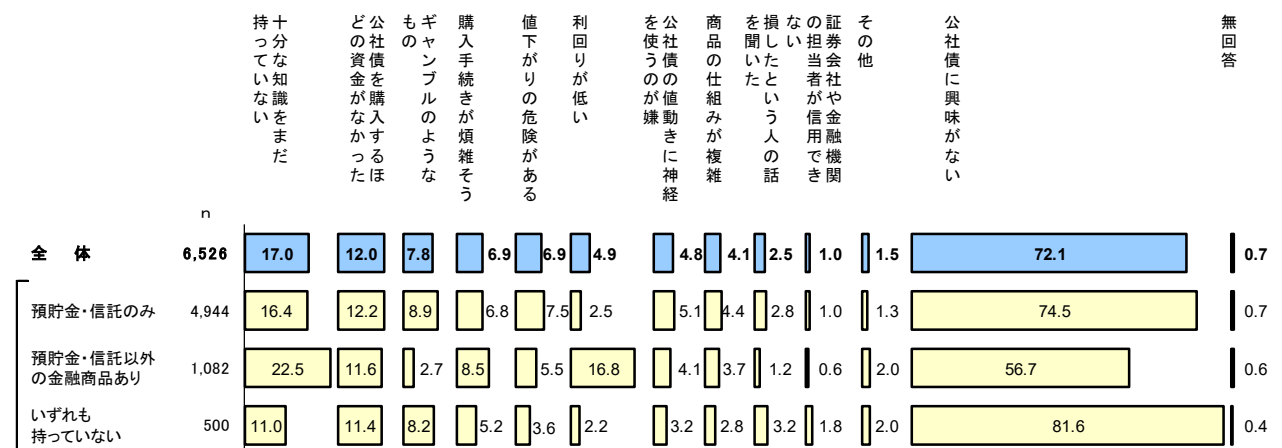
図表 8-13 【投資信託保有未経験者】投資信託非購入の理由（複数回答）（問 50）



(14) 【公社債保有未経験者】公社債非購入の理由（問 56）

● 公社債保有未経験者の公社債非購入の理由については、証券保有層に比べて、預貯金のみ層で「ギャンブルのようなものだったから」、「公社債に興味がないから」が高く、「十分な知識をまだ持っていないと思った（どの銘柄を買ったらよいかわからなかった）から」、「利回りが低いから」は低い。

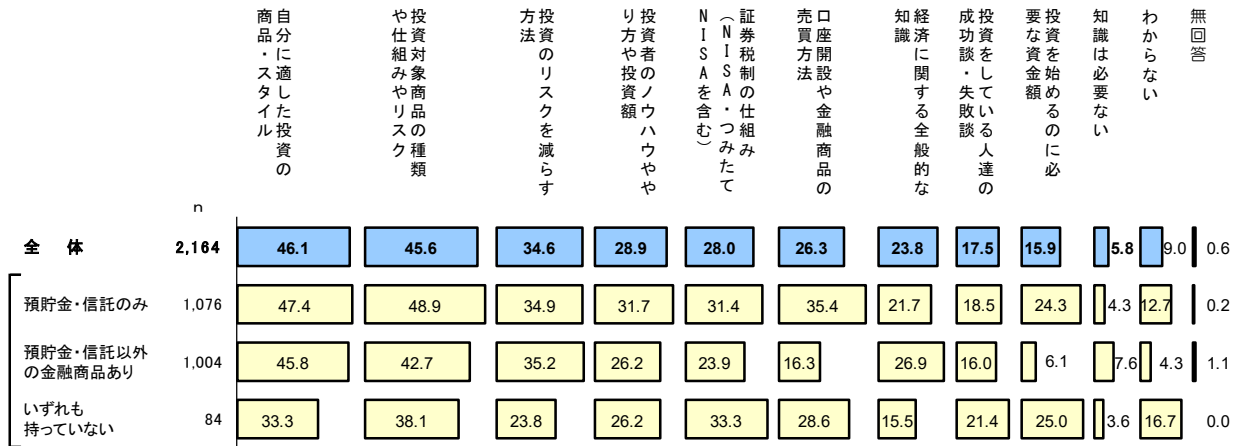
図表 8-14 【公社債保有未経験者】公社債非購入の理由（複数回答）（問 56）



(15) 証券投資知識の習得内容 (問 11)

● 証券投資知識の習得内容については、証券保有層に比べて、預貯金のみ層は「投資対象となる商品の種類・仕組み・リスクやリターン」、「実際に投資をしている人のノウハウややり方・投資額」、「証券税制の仕組み (NISA・つみたてNISAを含む)」、「口座開設や金融商品の売買方法に関する具体的な方法」、「投資を始めるにはどの程度の資金が必要か」、「わからない」が高く、「経済に関する全般的な知識」が低い。

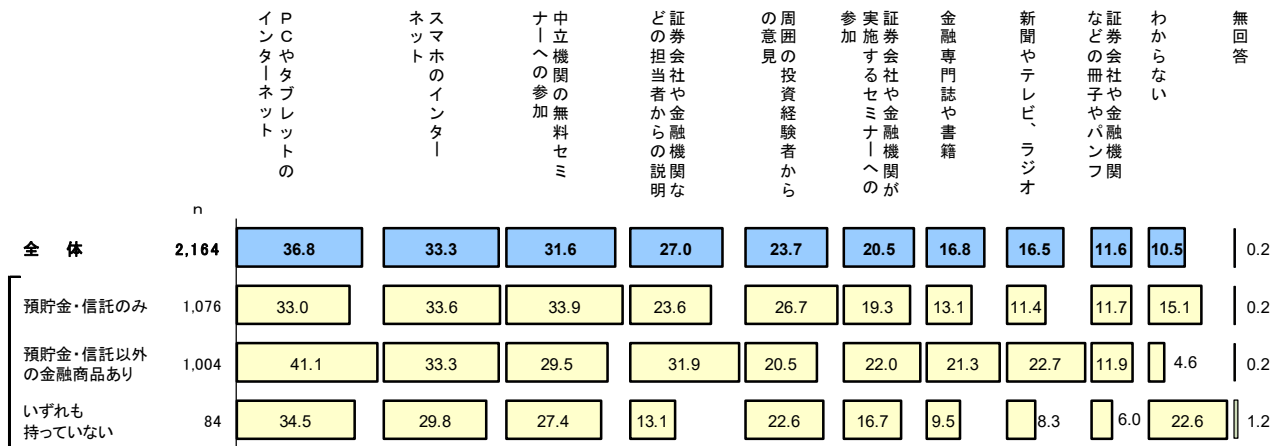
図表 8-15 証券投資知識の習得内容 (複数回答) (問 11)



(16) 証券投資知識の習得方法 (問 12)

● 証券投資知識の習得方法については、証券保有層に比べて、預貯金のみ層では、「周囲の投資経験者からの意見やアドバイス」、「わからない」が高く、「パソコンやタブレットを利用したインターネットからの情報」、「証券会社や金融機関などの担当者からの説明」、「金融専門誌や書籍からの情報」、「新聞やテレビ、ラジオからの情報」は低い。

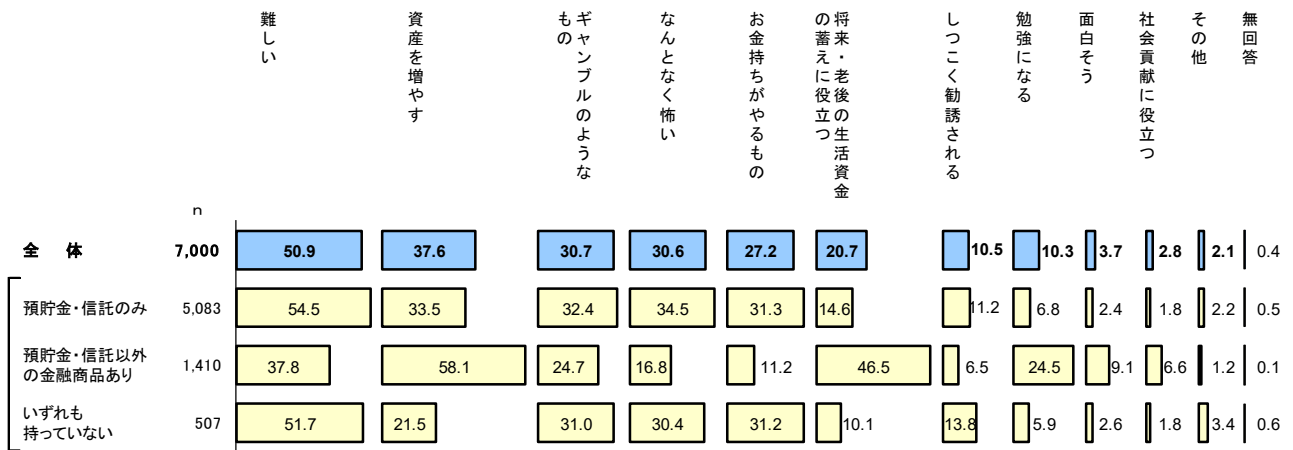
図表 8-16 証券投資知識の習得方法 (複数回答) (問 12)



(17) 証券投資全般のイメージ (問 17)

● 証券投資のイメージは、証券保有層に比べて、預貯金のみ層では、「難しい」、「ギャンブルのようなもの」、「なんとなく怖い」、「お金持ちがやるもの」が高く、「資産を増やす」、「将来・老後の生活資金の蓄えに役立つ」、「勉強になる」、「面白そう」は低い。

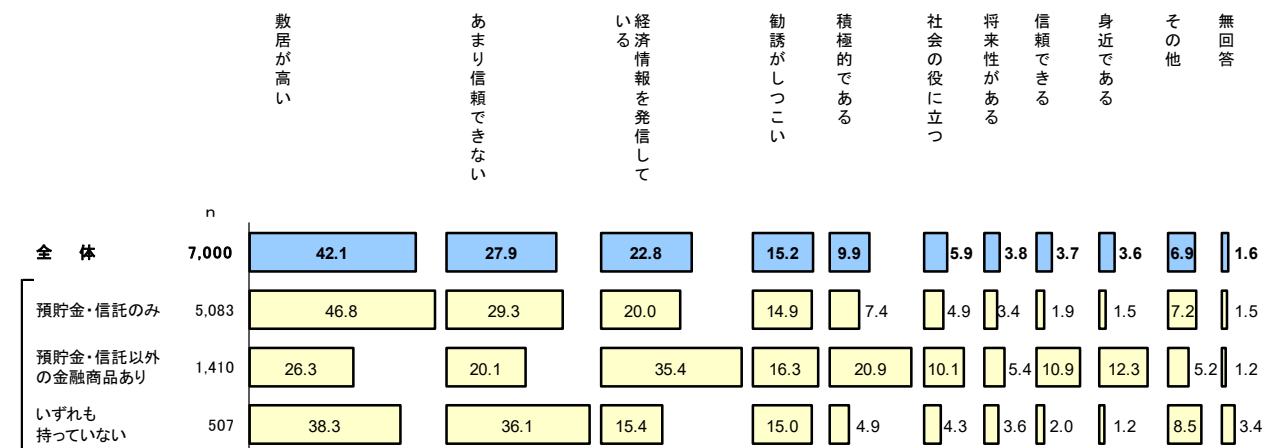
図表 8-17 証券投資全般のイメージ (複数回答) (問 17)



(18) 証券会社のイメージ (問 31)

● 証券会社のイメージは、証券保有層に比べて、預貯金のみ層では、「敷居が高い」、「あまり信頼できない」が高く、「経済情報を発信している」、「積極的である」、「社会の役に立っている」、「信頼できる」、「身近である」は低い。

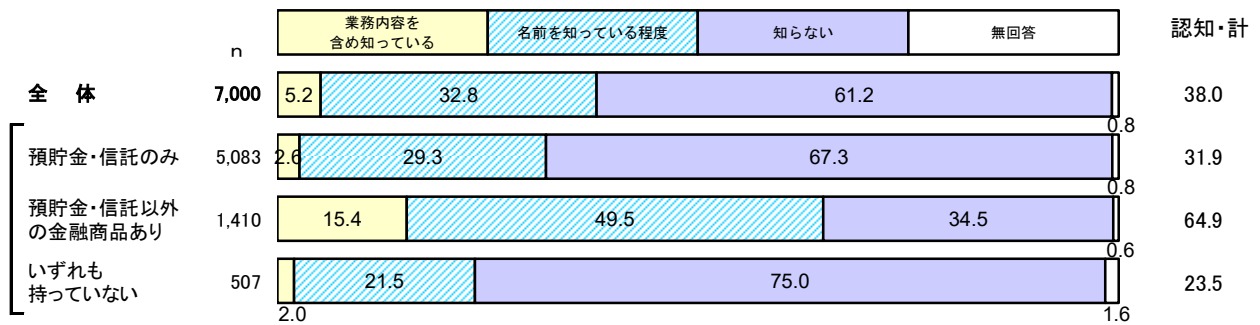
図表 8-18 証券会社のイメージ (複数回答) (問 31)



(19) 「証券取引等監視委員会」の認知度（問 21-A）

● 「証券取引等監視委員会」の認知度については、証券保有層に比べて預貯金のみ層で認知度が低く、「認知・計」でみると 33 ポイントの差がある。

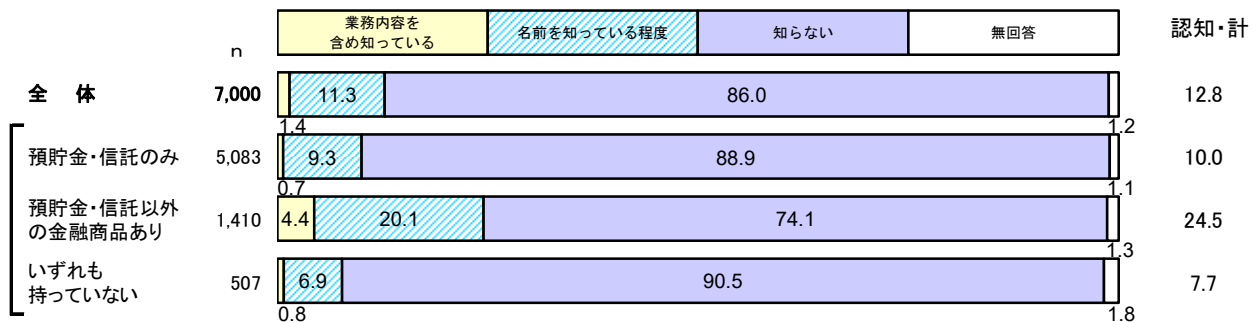
図表 8-19 「証券取引等監視委員会」の認知度（問 21-A）



(20) 「日本投資者保護基金」の認知度（問 21-B）

● 「日本投資者保護基金」の認知度については、証券保有層に比べて預貯金のみ層で認知度が低く、「認知・計」でみると 15 ポイント程度の差がある。

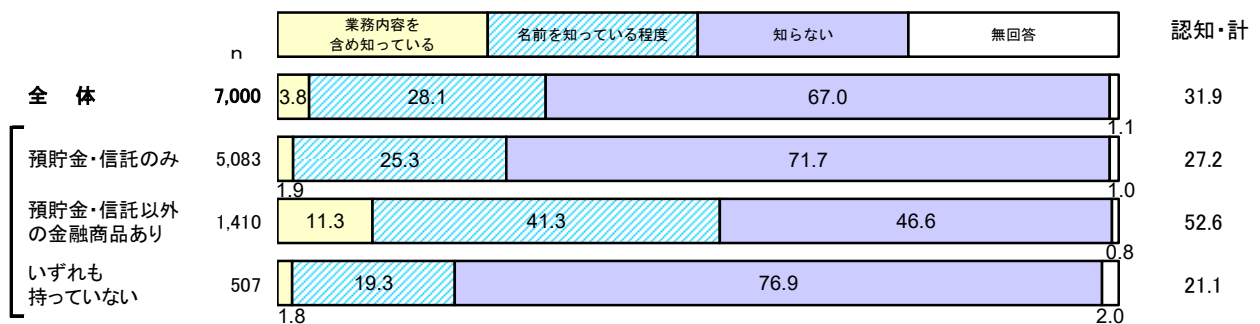
図表 8-20 「日本投資者保護基金」の認知度（問 21-B）



(21) 「日本証券業協会」の認知度（問 21-C）

● 「日本証券業協会」の認知度については、証券保有層に比べて預貯金のみ層で認知度が低く、「認知・計」でみると 25 ポイント程度の差がある。

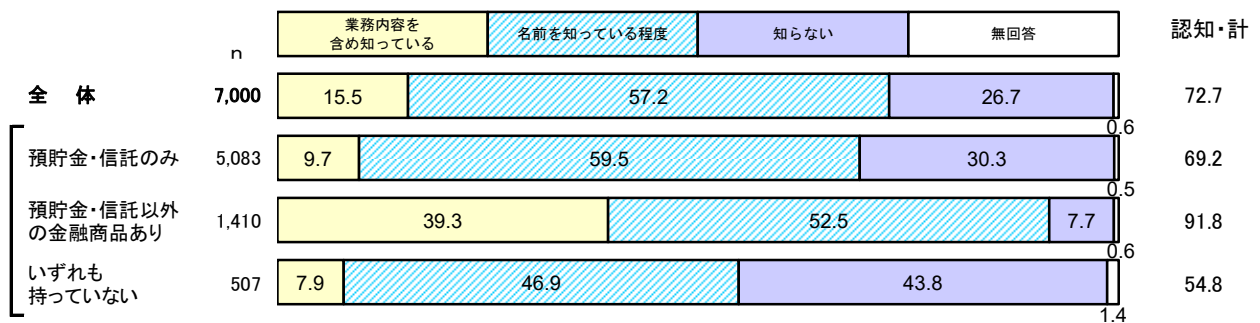
図表 8-21 「日本証券業協会」の認知度（問 21-C）



(22) 「東京証券取引所」の認知度（問 21-D）

● 「東京証券取引所」の認知度については、証券保有層に比べて預貯金のみ層で認知度が低く、「認知・計」でみると 23 ポイント程度の差がある。

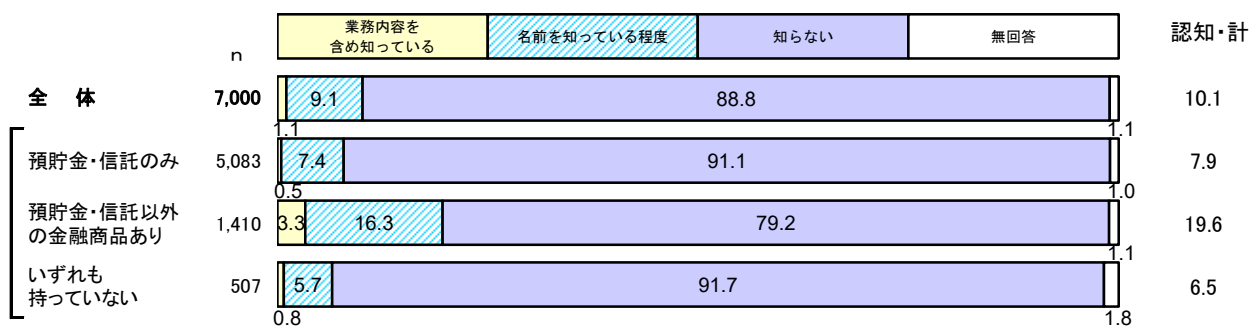
図表 8-22 「東京証券取引所」の認知度（問 21-D）



(23) 「証券・金融商品あっせん相談センター（FINMAC）」の認知度（問 21-E）

● 「証券・金融商品あっせん相談センター(FINMAC)」の認知度については、証券保有層に比べて預貯金のみ層で認知度が低く、「認知・計」でみると 12 ポイント程度の差がある。

図表 8-23 「証券・金融商品あっせん相談センター（FINMAC）」の認知度（問 21-E）



(24) N I S A 認知 (問 23)

● NISA に関して、預貯金のみ層では「知らない」が約半数 (49.0%) を占め、証券保有層の 10.2% に比べて高い。

図表 8-24 N I S A 認知 (問 23)

